

## 第81回原子力規格委員会 議事録

1. 日 時 2022年3月28日(月) 13:35~17:40

2. 場 所 一般社団法人 日本電気協会 4階 A会議室 (Web会議併用)

3. 出席者 (敬称略, 順不同)

出席委員: 越塚委員長(東京大学), 高橋副委員長(電力中央研究所), 阿部幹事(東京大学), 大坂(日立GEニュークリア・エナジー), 工藤(東芝エネルギーシステムズ), 佐藤<sub>兼</sub>(MHI NSエンジニアリング), 神坐(富士電機), 田中(関西電力), 波木井(東京電力HD), 山口<sub>嘉</sub>(日本原子力発電), 涌永(中部電力), 兼近(鹿島建設), 小山(日本製鋼所M&E), 竹内(日本原子力研究開発機構), 三浦(電力中央研究所), 村上(東京大学), 爾見(発電設備技術検査協会), 古田(東京大学, 安全設計分科会長), 望月(大阪大学, 構造分科会長), 山本(名古屋大学, 原子燃料分科会長), 中條(中央大学, 品質保証分科会長), 久保(東京大学名誉教授, 耐震設計分科会長), 上叢(日本アイトープ協会, 放射線管理分科会長), 山口<sub>彰</sub>(東京大学, 運転・保守分科会長) (計24名)

代理出席: 都筑(日本電気協会, 吉岡委員代理) (計1名)

欠席委員: なし (計0名)

常時参加者: なし (計0名)

説明者: 耐震設計分科会 白井(原子力エネルギー協議会, 幹事), 機器・配管系検討会 野元(関西電力, 幹事), 土木構造物検討会 松居(関西電力, 常時参加者), 重光(関西電力, 常時参加者)  
運転・保守分科会 運転管理検討会 坂元(原子力安全推進協会, 主査), 鈴木(東京電力HD, 副主査)

構造分科会 望月(大阪大学, 分科会長)\*1, 山田(関西電力, 幹事), 破壊靱性検討会 廣田(三菱重工業, 主査), 高本(三菱重工業, 副主査), 神長(東京電力HD, 幹事), 高田(関西電力, 幹事), 大厩(原子力安全システム研究所, 委員), 佐伯(電力中央研究所, 委員), 中島(電力中央研究所, 委員), 中崎(関西電力, 委員), 服部(東芝エネルギーシステムズ, 委員), 山本(日本核燃料開発, 委員)

牛島(関西電力, 安全設計分科会幹事), 田中(関西電力, 品質保証分科会幹事), 大浦(日本原子力発電, 放射線分科会幹事), 大平(日本原子力発電, 運転・保守分科会幹事) (計22名)

事務局: 高柳, 中山, 寺澤, 葛西, 佐藤, 景浦, 米津, 末光, 原, 田邊(日本電気協会) (計10名)

\*1: 出席委員と同一

4. 配付資料: 別紙参照

5. 議 事

事務局から, 本委員会にて私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないこと及び録音することを確認の後, 議事が進められた。

## (1) 会議開催定足数確認他

事務局より、代理出席者1名の紹介があり委員長の承認を得た。委員総数25名に対して代理出席者も含めて25名出席であり、定足数確認時点で原子力規格委員会規約第11条（会議）第1項に基づく出席委員は委員総数の3分の2以上の出席という会議開催定足数の条件を満たしているとの報告があった。

また事務局より、Web会議に対する注意事項、配布資料の確認の後、第82回原子力規格委員会は、2022年6月28日（火）午後を予定しており、各委員の予定確保をお願いするとの説明があった。

## (2) 原子力規格委員会 分科会委員の承認

### 1) 原子力規格委員会新委員の紹介

事務局より、資料 No.81-1-1 に基づき、下記原子力規格委員会新委員の紹介があり、その後新委員より挨拶があった。

- ・新委員 望月 委員（大阪大学, 構造分科会 分科会長）

### 2) 分科会委員の変更及び承認（審議）

事務局より、資料 No.81-1-2 に基づき、下記分科会委員の変更の紹介があり、分科会規約第6条（委員の選任・退任・解任及び任期）第1項に基づき、分科会委員の変更について、原子力規格委員会規約第14条（決議）第4項に基づき、挙手による決議の結果、全員賛成により承認された。

#### 【安全設計分科会】

- ・退任 松下 委員（三菱電機）
- ・新委員 杉谷 氏（同左）
- ・退任 鎌田 委員（原子力安全推進協会）

#### 【構造分科会】

- ・退任 松永 委員（東芝エネルギーシステムズ）
- ・新委員 三橋 氏（同左）
- ・退任 堂崎 委員（原子力安全推進協会）

#### 【品質保証分科会】

- ・退任 芝原 委員（日立 GE ニュークリア・エンジニア）
- ・新委員 奥平 氏（同左）

#### 【耐震設計分科会】

- ・新委員 野元 氏（関西電力）

#### 【放射線管理分科会】

- ・退任 金野 委員（日立製作所）
- ・新委員 宮島 氏（同左）

#### 【運転・保守分科会】

- ・退任 安本 委員（発電設備技術検査協会）
- ・新委員 井口 氏（同左）

## (3) 規格の策定状況（中間報告）

### 1) JEAC4216「フェライト鋼の破壊靱性参照温度 $T_0$ 決定のための試験方法」改定案

構造分科会 破壊靱性検討会 山本委員より、資料 No.81-2-1 に基づき、JEAC4216「フェライト鋼の破壊靱性参照温度  $T_0$  決定のための試験方法」改定概要について説明があった。

主な説明は以下のとおり。

- ・ 本日は JEAC4216-202X 版の改定概要について中間報告を実施する。
- ・ JEAC4216 は、米国の ASTM E1921 という規格をベースとして、日本でマスターカーブ法による破壊靱性評価法を適用する上での取り決めをまとめた規格となっている。

- ・ 初版は2011年、現行版は2015年であり、NRAによるJEAC4216-2015の技術評価の結果、監視試験でのマスターカーブ法の活用を念頭において列挙された技術課題について、最新知見を参照して改定を進める。また、ASTME1921のアップデート版(2021年版)とJEAC4216-2015のギャップを整理し、関連する最新知見に基づき必要と判断されたものをJEAC4216へ取り込み、改定する。
- ・ 2022年度中に上程できるように作業を進めている。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 技術評価について詳しく説明があったが、JEAC4201-202Xの技術評価にはJEAC4216-2015を使用し対応するということが、時間的な要因があるということなのか。
- 基本的には2015年版で技術的な妥当性は確認されており、どうしても次の技術評価までに解決しなくてはならない課題はないと考えているので、JEAC4216の202X年版で反映を考えていたものについては、2015年版でも支障はないという判断である。また、JEAC4216については、委員の指摘のとおり、JEAC4201-202Xより後に発刊と思われるが、JEAC4201-202Xの適用を急いでいる。JEAC4201-202Xの技術評価には、ある程度技術評価が完了しているJEAC4216-2015で対応したいと考えている。
- ・ 本件中間報告ということなので、事務局から別途意見伺い依頼を各委員に送付する。

#### (4) その他(その1)

##### 1) JEAC4201「原子炉構造材の監視試験方法」改定案へのコメント対応内容

構造分科会 破壊靱性検討会 廣田主査より、資料No.81-3-1シリーズに基づき、JEAC4201「原子炉構造材の監視試験方法」改定案へのコメント対応内容について説明があった。

主な説明は以下のとおり。

- ・ JEAC4201の改定については、関連温度移行量評価式及び監視試験計画の見直しという2本立てで進めてきた。
- ・ 前回原子力規格委員会では、ハルデン照射試験炉の照射試験データの変更について、影響が小さいという見通しを説明したが、ハルデン照射試験炉の全ての情報が入手出来ていないので、今後得られるデータに基づき影響評価をする必要があり、その結果がまとまるまでJEAC4201改定案は上程しないということで、中間報告という位置付けにして意見伺いを実施した。
- ・ ハルデン照射試験炉の件については新たな進捗はない状況であるため、意見への回答のみを今回実施する。
- ・ 意見としては30件以上頂いており、その意見対応を実施した。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 適切に意見への回答をしており良いと思う。資料No.81-3-1-1のNo.28, No.33は難しい議論であり、慎重に検討していると思うが、個人的にはもう少し検討したいと考えている。
- ・  $M_C$ がプラス側に $M_{C_{limit}}$ を超えて、 $M_C$ 補正を実施する時に、基本的に $M_R$ がかなり保守的になっているというような説明であったと思うが、保守的過ぎるので、 $M_C$ 補正を実施した場合の残差から $M_R$ を設定するのが自然な感じがするが如何か。
- 前回の原子力規格委員会でも指摘があったが、 $M_C$ 補正を実施すると、 $10.4^{\circ}\text{C}$ から $6.5^{\circ}\text{C}$ まで残差の標準偏差が小さくなり、従来の考え方では $6.5^{\circ}\text{C}$ の2倍の $13^{\circ}\text{C}$ で $M_R$ を設定していた。しかし、監視試験データで補正することにより、標準偏差が小さくなるのは当たり前の話であり、その時に $6.5^{\circ}\text{C}$ で本当に良いの

か、過補正になっているのではないかという指摘があり、6.5℃を使用するのは説明性が悪く、真値は10.4℃と6.5℃の間にあるかもしれないが、それを設定するのは難しいと判断し、最終的に補正なしの誤差の標準偏差10.4℃を使用することとした。

- ・ 何となくは分かるが、そうすると  $M_{Climit}$  を超えた場合には、他の補正を実施していない場合と比べて、かなりマージンを加えた値と見た時に、コンサバ加減が大きくなっているような気がするが如何か。
- $M_{Climit}$  を超えるような材料について10.4℃を使用するのは保守的過ぎるということだと思うが、保守的にはなるが、これを合理化して小さくするとしても、それを何℃にするのが難しいと判断しており、何処で保守性を確保するかが難しい。説明性を確保した上で保守性を確保しなくてはならないが、補正ありの場合の標準偏差をいくらにしたら良いかというのがなかなか設定できないので、補正なしの残差の標準偏差に基づいて設定している。
- ・ 今まで集めたデータを使用してプロットした場合、今回評価された値自体は改定前のJEAC4201と比べて大きくは変化しないという認識で良いか。
- 標準偏差が改定前後でどれだけ変化するかという事だと思うが、同等ぐらいの標準偏差、すなわち、9.5℃に対して10.4℃となっている。
- ・ 本件は中間報告の意見伺いに対する報告ということで、規格案の上程についてはハルデン炉の影響評価が完了してからということになる。

#### (5) 令和3年度原子力規格委員会功労賞対象者（審議）

事務局より、資料No.81-4に基づき、令和3年度原子力規格委員会功労賞対象者について紹介があった。

原子力規格委員会功労賞規約第4条（選考及び決定）第6項に基づき、表彰審議会の選考に基づく表彰者の決定について、原子力規格委員会規約第14条（決議）第4項に基づき、挙手による決議の結果、全員賛成により承認された。

委員長より、第66回原子力関連学協会規格類協議会でATENAから説明のあった「原子力エネルギー協議会（ATENA）にて作成されるレポート類について」（参考資料5）の紹介があった。

#### (6) 2022年度活動計画、各分野の規格策定活動（審議）

各分科会幹事及び事務局より、資料No.81-5シリーズに基づき、2022年度活動計画、各分野の規格策定活動について説明があった。

審議の結果、2022年度活動計画、各分野の規格策定活動について、原子力規格委員会規約第14条（決議）第4項に基づき、挙手による決議の結果、全員賛成により承認された。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 資料No.81-5-1の表で、4頁のJEAG4609-2020 デジタル安全保護系の検証及び妥当性確認に関する指針という記載がある。耐震設計分科会に関係することとして、指針と原子力規制庁での技術評価の関係性を確認したい。今年の1月に実施されているようだが、原子力規制庁は指針に対して技術評価を積極的に実施しようとしているのか。そのあたりの感触を経験者として伺いたいと思う。なぜかという、耐震設計分科会はJEAC4601とJEAG4601の2つを持っており、耐震設計分科会としては技術評価の対象として、

JEAC4601 を考えている。指針を対象とした際に原子力規制庁の方で変わった反応とか感じられたことはなかったのか。もしあれば原子力規格委員会で規程と指針についてどのような形で技術評価対応を行うかという参考になると考える。

- 安全設計分科会幹事だが、今の質問に関して説明する。資料 No.81-5-1 の 4 頁の JEAG4609-2020 は、左の改定来歴を見ると、1989 年にまず指針として生まれた。そもそもは安全保護系にデジタル計算機をこれからは使用していこうという当時の状況を踏まえて、計算機に置き換えるに当たっての考え方を指針として定めたのが、そもそもの始まりである。当時は安全保護系にデジタル計算機を適用する規格は指針しかない状態であり、原子力規制庁の前身の原子力安全・保安院の時もデジタル計算機を適用する時の考え方について技術評価が実施されたが、当時は指針しかなかったことから、指針について技術評価が実施された。その際、今回は指針について技術評価を行うが、これは内容としては基準であり、省令 62 号の要求事項の内容を具現化したものであることから規程化することが望ましいとの要望が示された。これを受けて生まれたのが、資料 No.81-5-1 の 6 頁の JEAC4620-2020 安全保護系へのデジタル計算機の適用に関する規程であり、最初は指針しかなかったが、指針の中から省令 62 号の技術基準要求を受けた形で規程として 2008 年に制定された。その後、新たに原子力規制庁ができた時に、(指針に加えて) 規程の方も技術評価が実施された。今の技術基準規則の第 35 条になるが、その要求事項のうちデジタル計算機の(適用に関する) 要求事項を確認していただき、技術評価がなされている。ただし、計算機の適用に当たっての細かなやり方に関しては指針の方が詳しく記載していることから、先ほど質問のあった 4 頁の JEAG4609-2020 デジタル安全保護系の検証及び妥当性確認に関する指針を引用する形で前回の技術評価がなされている。今回、技術評価を受けているところであるが、JEAC4620 と今指摘を受けた JEAG4609 の 2 本立てで技術評価を受けている。しかしながら、原子力規制庁のスタンスとしては、本来、技術基準の要求事項を受けたものとしては、規程のしかも本文の中にしっかり書かれているべきであるということであり、そういう指摘を受けながら対応を行っているところである。今言った所は、(具体的には)解説の所に補足するような設計の例示も書いてあるが、これらも解説ではなく、本文に書いてあることが技術評価としては望ましいという注文である。
- ・ 原子力規格委員会の委員の中で、分科会から参加している者としては原子力規制庁が指針も含めて技術評価を行えるのかということが関心のあるところであると思う。指針から規程に分ける前の時期に一度技術評価されているので特殊性があるようであるが、耐震設計分科会の JEAC4601 は、規程と指針に分けたのが前回の改定であり、歴史的にはやや新しい。今後各分科会でどのような形で技術評価に持っていくかという時に、評価対象は規程の方が望ましいという印象を受けたが、その理解で良いか。
- 今の点の指摘はもっともだと思う。今技術評価を受けている者としては、各規格基準の書きっぷりというか、何処まで規定するかということにもよるかと思っている。今デジタル計算機の安全保護系への適用については規程の本文は性能要求、機能要求的な記載事項が主だったものであり、それを設計として反映したものを解説で記載して、各メーカーも含めた各設計の選択肢といった形になっている。原子力規制庁による昨年度の技術評価は、構造関係とか検査関係の基準に対する評価を実施しており、その場合仕様要求的なもの、検査要求的なものを確認してきたので、その部分ではフェーズは合っていたのかと思うが、今回のデジタル安全保護系に関する規格の場合は機能要求的な記載が本文であったので、そのあたりの具体的な記載を何処まで読みに行くのかということ、原子力規制庁も考えながら日本電気協会に質問を投げかけており、対応しているといった状況である。

## (7) 規格案の審議

### 1) JEAC4805「原子力発電所運転責任者の判定に関わるシミュレータ規程」改定案

運転・保守分科会 運転管理検討会 坂元主査より、資料 No.81-6-1 シリーズに基づき、JEAC4805「原子力発電所運転責任者の判定に関わるシミュレータ規程」改定案について説明があった。

審議の結果、JEAC4805「原子力発電所運転責任者の判定に関わるシミュレータ規程」改定案を、原子力規格委員会の書面投票に移行することについて、挙手による決議の結果、全員賛成により承認された。

主な説明は以下のとおり。

- ・ JEAC4805 については、5 年ごとの定期改定ということで、①制定後の運用実績の反映の要否、②最新の ANSI/ANS の反映の要否、③廃止措置、中央制御室制御盤更新の対応について（中央制御室制御盤更新;アナログ式制御盤からデジタル式制御盤への変更）、④その他として、記載の適正化(規格作成手引きの準拠等)の改定ということで進めた。
- ・ 原子力規格委員会での中間報告での意見対応については完了している。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 前回からの変更というのは、原子力規格委員会での中間報告からの変更ということか。
- 中間報告で意見を頂いて反映した部分に変更となっている。

### ○ 特に異論がなかったので、下記条件で書面投票に移行するかについて、原子力規格委員会規約第 14 条（決議）第 1 項に基づき、挙手による決議の結果、全員賛成により承認された。

- ・ 書面投票期間は、3 月 29 日（火）から 4 月 18 日（月）の 3 週間で実施する。
- ・ 書面投票の結果、可決された場合は 2 ヶ月間の公衆審査に移行する。なお、公衆審査開始までの編集上の修正の範囲か否かの判断及び内容の承認については委員長、副委員長、幹事の三役に一任する。
- ・ 公衆審査の結果、意見提出がない場合は成案とし、発刊準備に移行する。
- ・ 公衆審査において、編集上の範囲内での意見があった場合には、委員長、副委員長、幹事により、編集上の修正か否かの判断及び修正内容の承認を実施し、修正内容について委員に通知して、発刊準備に入る。意見の内容によっては、回答案について、委員会審議を行う。
- ・ 公衆審査において、編集上の修正の範囲を超える意見があった場合には、書面投票又は委員会審議により、別途審議する。
- ・ 公衆審査で意見が無く、以降発刊までの編集上の修正については、出版準備（校閲）の範疇として、分科会の責任で修正を行う。

### 2) JEAG4802「原子力発電所運転員の教育・訓練指針」改定案

運転・保守分科会 運転管理検討会 坂元主査より、資料 No.81-6-2 シリーズに基づき、JEAG4802「原子力発電所運転員の教育・訓練指針」改定案について説明があった。

審議の結果、JEAG4802「原子力発電所運転員の教育・訓練指針」改定案を、原子力規格委員会の書面投票に移行することについて、挙手による決議の結果、全員賛成により承認された。

主な説明は以下のとおり。

- ・ JEAG4802 については、前回改定から 4 年経ったことから、①改訂後の運用実績として、保安規定からの反映、特定重大事故等対処施設の追加対応、②国内外の最新知見の反映として、NUREG-1122, 1123 Rev3 との比較結果を一部反映等、③その他として、記載の適正化(規格作成手引きの準拠等)の改定ということで進めた。
- ・ 原子力規格委員会での中間報告での意見対応については完了している。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 資料 No.81-6-2-②の 4 頁の関連法規と規格の所で、後ろの 3 つを削除したという話があった。先ほどの JEAC4805 の場合には JEAG4802 と JEAC4804 を関連規格としていたが、JEAG4802 と JEAC4804 はよりゼネラルなものであり、JEAC4805 はシミュレーションというのは特殊なケースを規定しているので、関連規格として引用しているのは適切と思う。同じ考え方をすると、JEAG4802 というのは運転員の教育・訓練指針を扱っており、JEAC4111 がヒューマンリソースのマネジメント全体について書いてあることを考えると、JEAC4111 を削除してしまうのが良いのかどうか、JEAC4111 に書いてあるヒューマンリソースのマネジメントの要求事項・指針を守った上で、運転員の教育・訓練については JEAG4802 に従って実施していく方が良いのではないかと考えられる。そういう意味で、JEAC4111 を消してしまうことについての考えは如何か。
- 分科会審議でも同じように意見を頂いており、基本的に JEAC4111 は品質保証の規程でいうと、発電所の全体に関わる規程であり、JEAC4111 の要求事項全てが JEAG4802 の運転員というものに直接的に繋がるかという点、そうではないと考えており、JEAG4802 は運転員の訓練で幅広く実施しているので、JEAC4111 の要員認定に直接係るものではないと考えている。
- ・ 本件も上程なので書面投票に移行するかについて決議を取りたいと考える。

- 特に異論がなかったため、下記条件で書面投票に移行するかについて、原子力規格委員会規約第 14 条(決議) 第 1 項に基づき、挙手による決議の結果、全員賛成により承認された。
- ・ 書面投票期間は、3 月 29 日(火) から 4 月 18 日(月) の 3 週間で実施する。
- ・ 書面投票の結果、可決された場合は 2 ヶ月間の公衆審査に移行する。なお、公衆審査開始までの編集上の修正の範囲か否かの判断及び内容の承認については委員長、副委員長、幹事の三役に一任する。
- ・ 公衆審査の結果、意見提出がない場合は成案とし、発刊準備に移行する。
- ・ 公衆審査において、編集上の範囲内での意見があった場合には、委員長、副委員長、幹事により、編集上の修正か否かの判断及び修正内容の承認を実施し、修正内容について委員に通知して、発刊準備に入る。意見の内容によっては、回答案について、委員会審議を行う。
- ・ 公衆審査において、編集上の修正の範囲を超える意見があった場合には、書面投票又は委員会審議により、別途審議する。
- ・ 公衆審査で意見が無く、以降発刊までの編集上の修正については、出版準備(校閲)の範疇として、分科会の責任で修正を行う。

## (8) 基本方針策定タスク案件の審議・報告

### 1) 第8回原子力規格委員会シンポジウムについて（報告）

事務局より、資料 No.81-7-1 に基づき、第8回原子力規格委員会シンポジウムについて報告があった。

主な説明は以下のとおり。

- ・ 基本方針策定タスクで第8回原子力規格委員会シンポジウムについて議論を実施した。
- ・ 第8回原子力規格委員会シンポジウムは、座長を越塚委員長とし、テーマを「新検査制度導入後 これからの規格に求められるもの（仮）」として、10月又は11月13時30分から16時ということで予定している。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 新検査制度については、以前のシンポジウムでも取り上げている。その後今日も報告があったが、検査制度見直しに伴う規格の制・改定を精力的に日本電気協会では進めてきており、進捗としてはほぼ完了しつつある。そういうこともあるし、新検査制度の実績も出てきているので、これを取り上げて民間規格、学協会規格がどのように活用されているかを議論するようなシンポジウムを次回開催したいということである。このような方針でシンポジウム企画を進める。

### 2) 検査制度見直し等に伴う規格の制・改定の検討状況について（報告）

事務局より、資料 No.81-7-2 に基づき、検査制度見直し等に伴う規格の制・改定の検討状況について報告があった。

主な説明は以下のとおり。

- ・ JEAG4612「安全機能，重大事故等に対処する機能を有する電気・機械装置の重要度分類指針」，JEAG4611「安全機能，重大事故等に対処する機能を有する計測制御装置の設計指針」，JEAC4626/JEAG4607「原子力発電所の火災防護規程/指針」，JEAG4103「原子力発電所の火災防護管理指針」については現在発刊準備中となっている。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 特になし。

## (9) その他（その2）

### 1) 前回議事録の確認

事務局より、資料 No.81-8-3-1 及び資料 No.81-8-3-2 に基づき、前回議事録の紹介があった。正式議事録にすることについて、特にコメントはなく、承認された。

### 2) JEAC4601「原子力発電所耐震設計技術規程」における誤記について

耐震設計分科会 機器・配管系検討会 野元幹事より、資料 No.81-8-1 に基づき、JEAC4601「原子力発電所耐震設計技術規程」における誤記について説明があった。

主な説明は以下のとおり。

- ・ JEAC4601-2021 版作成過程で、JEAC4601-2015 に誤記があることを発見した。
- ・ 耐震設計分科会で当該の誤記について、原子力規格委員会 運営規約細則 4.9「誤記発見時の審議, 対応細則」に基づき、①から③のいずれのグレードに当たるかを審議した。
- ・ その結果、4件の誤記について判定基準に影響を与えることは無いものの活用上問題があり、②に相当すると判断し、正誤表を公表することとした。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 正誤表の発行は何時頃になるのか。
- 早急に発行したいと考えている。

### 3) JEAC4620 及び JEAG4609 の技術評価対応状況（報告）

事務局より、資料 No.81-8-2 に基づき、JEAC4620 及び JEAG4609 の技術評価対応状況について説明があった。また、本日(3/28)15 時から開催された「第 18 回新規制要件に関する事業者意見の聴取に係る会合」にて、当協会からは、事業者から 2022 年度に技術評価の要望があった 6 規格の内、2 規格（JEAC4601-2021, JEAC4201-20XX）の改定の概要他について説明を行った旨、速報（口頭）として報告があった。

主なご意見・コメントは以下のとおり。

- ・ 特になし。

### 4) 次回原子力規格委員会開催予定

事務局より、委員会冒頭でも説明したように、次回原子力規格委員会は 6 月 28 日（火）を予定しているとの説明があった。

以 上

資料 No.81-1-1	原子力規格委員会委員名簿 2022 年 3 月 28 日現在
資料 No.81-1-2	原子力規格委員会 分科会委員名簿 (案) 2022 年 3 月 28 日現在
資料 No.81-2-1	「JEAC4216-202X フェライト鋼の破壊韌性参照温度 $T_0$ 決定のための試験方法」改定概要
資料 No.81-3-1-1	第 80-2 回 原子力規格委員会 JEAC4201 改定案中間報告 ご意見伺い時のご意見及び回答 (案)
資料 No.81-3-1-2	原子炉構造材の監視試験方法 JEAC 4201-202X
資料 No.81-3-1-3	JEAC4201-202X 規格改訂提案 新旧比較表
資料 No.81-3-1-4	JEAC4201 改定案 第 80-2 回原子力規格委員会以降の変更箇所
資料 No.81-3-1-5	規格制改定時に対象とした国内外の最新知見とその反映状況
資料 No.81-3-1-6	$M_C$ 補正及び $M_R$ 設定に係る変更点について
資料 No.81-3-1-7	原子炉圧力容器の中性子照射脆化予測法検討小委員会 最終報告書
資料 No.81-4	令和 3 年度 原子力規格委員会 功労賞 選考結果
資料 No.81-5-1	2021 年度活動実績及び 2022 年度活動計画 (案)
資料 No.81-5-2	2022 年度各分野の規格策定活動 (案)
資料 No.81-5-3	2021 年度活動実績及び 2022 年度活動計画 (案) (見え消し削除等)
資料 No.81-5-4	2022 年度各分野の規格策定活動 (案) (見え消し削除等)
資料 No.81-6-1-①	原子力発電所運転責任者の判定に係るシミュレータ規程 (JEAC-4805) の改訂について
資料 No.81-6-1-②	JEAC4805-202X 改定作業 –JEAC4805-2014 と改定案との全文比較表–
資料 No.81-6-1-③ (1)	JEAC4805 改定案 (中間報告) に関する原子力規格会から頂いた意見等
資料 No.81-6-1-③ (2)	JEAC4805 改定案 (運転・保守分科会 審議・書面投票) における御意見対応リスト
資料 No.81-6-1-④	原子力発電所運転責任者の判定に係るシミュレータ規程(JEAC 4805 – 202X)改定案
資料 No.81-6-1-参考	規格制改定時に対象とした国内外の最新知見とその反映状況
資料 No.81-6-2-①	原子力発電所運転員の教育訓練指針(JEAG4802)の改訂について
資料 No.81-6-2-②	JEAG4802-202X 改定作業 –JEAG4802-2017 と改定案との全文比較表–
資料 No.81-6-2-③ (1)	JEAG4802 改定案 (中間報告) に関する原子力規格委員会から頂いた意見等
資料 No.81-6-2-③ (2)	JEAG4802 改定案 (運転・保守分科会 審議・書面投票) における御意見対応リスト
資料 No.81-6-2-④	原子力発電所運転員の教育・訓練指針(JEAG4802-202X)改定案
資料 No.81-6-2-参考	規格制改定時に対象とした国内外の最新知見とその反映状況
資料 No.81-7-1	第 8 回 日本電気協会 原子力規格委員会シンポジウム プログラム (案)
資料 No.81-7-2	検査制度の見直し等に伴う規格の制・改定の状況について (報告)
資料 No.81-8-1	原子力発電所耐震設計技術規程 JEAC4601-2015 の誤記について
資料 No.81-8-2	デジタル安全保護系に関する規格の技術評価対応状況について
資料 No.81-8-3-1	第 80-1 回原子力規格委員会 議事録 (案)
資料 No.81-8-3-2	第 80-2 回原子力規格委員会 議事録 (案)
参考資料-1	日本電気協会 原子力規格委員会 規約
参考資料-2	日本電気協会 原子力規格委員会 活動の基本方針
参考資料-3	日本電気協会 原子力規格委員会 規程・指針策定状況
参考資料-4	日本電気協会 原子力規格委員会 委員参加状況一覧
参考資料-5	原子力エネルギー協議会 (ATENA) にて作成されるレポート類について